

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	送 付 委員会名
5 年 第 2 号	4. 1 2. 2 8	<p>日本全体で解決すべき問題として、普天間基地周辺の子どもたちを取り巻く空・水・土の安全の保障を求める陳情</p> <p>①学校上空（普天間小、普天間第二小、緑ヶ丘保育園）の飛行禁止  ②日本政府、沖縄県、宜野湾市の責任において、普天間第二小学校内の土壌調査の実施及びPFAS汚染特定箇所の土壌の入れ替えを行うこと  ③普天間の子どもたちを取り巻く空・土・水の安全を保障すること</p> <p>以上を議会において採択し、その旨の意見書を、地方自治法第99条の規定により、国及び衆議院・参議院に提出するようお願いする。</p> <p>（陳情）</p> <p>1 学校上空（普天間小、普天間第二小、緑ヶ丘保育園）の飛行禁止</p> <p>2017年12月7日、緑ヶ丘保育園ではCH53E米軍ヘリのプラスチック部品落下事故が起きた。沖縄県警はこの部品について、「米軍ヘリからの落下物とは特定できなかったが、その可能性を否定するものでもない」と発表している（2020年12月）。落下物が見つかったのは、子どもたちが遊ぶ園庭からわずか50センチのところだった。直径8センチ、長さ10センチ、重さ213グラムの部品が子どもたちに当たっていたらと思うと、とても恐ろしい。</p> <p>同年12月13日には、普天間第二小の運動場にCH53E米軍ヘリから重さ約7.7キロの窓枠が落下する事故があった。このとき、落下の衝撃によってはねた小石が体育の授業中だった児童一人にあたり、軽傷を負わせた。これ以後、普天間第二小の生徒たちは米軍機が接近するたびに避難をし、思う存分遊んだり、学んだりすることが難しくなった。</p> <p>また、2021年11月23日には、訓練中の米軍機から水筒が落下し、宜野湾市野嵩の住宅街にある民家の玄関先で見つかった。これらの事故は、宜野湾市で生活する市民の生命を脅かすものである。</p> <p>日米両政府は普天間飛行場周辺で学校や病院などの上空飛行を避ける場周経路の設定で合意している。しかし実際には、場周経路を外れた飛行は常態化している。これについて、沖縄防衛局は気象条件などのために米軍機が場周経路外を飛ぶこともあると説明している。しかし、保育園や小学校への送迎時には、毎日</p>	<p>コドソラ  代表 与那城 千恵美</p>	<p>防災環境  産業</p>

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	送 付 委員会名
		<p>と言っているほど CH53E やオスプレイが上空を飛ぶ姿を目撃している。落下物だけではなく、低空飛行や騒音も子どもたちの生活を脅かしている。</p> <p>緑ヶ丘保育園の子どもたちは、お昼寝の時間を妨げられたり、おやつを食べながら耳を塞いだりということが日常になっている。普天間第二小の校庭には、危険を避けるための「避難小屋」が設けられた。しかし、子どもを守るということは、米軍機の危険を子どもたち自身が避けて避難するというような現実自体を変えることなのではないか。普天間飛行場の近隣にある普天間小・普天間第二小・緑ヶ丘保育園の子どもたちはずっと我慢を重ねてきた。場周経路外にある普天間小・普天間第二小・緑ヶ丘保育園上空の米軍機飛行禁止を要請する。</p> <p>2 日本政府、沖縄県、宜野湾市の責任において、普天間第二小学校内の土壌調査の実施及びPFAS 汚染特定箇所土壌の入れ替えを行うこと</p> <p>沖縄の米軍基地周辺では、かねてから PFAS（有機フッ素化合物）による水の汚染が問題となってきた。2022 年 8 月の土壌調査によって、普天間第二小の敷地の一部から米国基準の 29 倍に達する PFAS が検出された。調査では 3 つの地点で土壌が採取されたが、このうち学校裏にある排水溝近くからは 1 キログラムあたり 1700 ナノグラム、運動場のバックネット裏付近からは 1000 ナノグラムの濃度の PFAS が検出されている。</p> <p>PFAS の健康被害についてはまだわかっていないことが多く、日本では土壌の基準値の設定すらされていない。このような状況のなか、小学校の敷地から高い数値で PFAS が検出されたことを私たち保護者は大変不安に感じている。</p> <p>2022 年 8 月に行われた土壌調査は市民グループによるもので、土壌採取は 3 つの地点のみに留まっている。日本政府、沖縄県、宜野湾市の責任において、普天間第二小の敷地全域の土壌調査を行い、汚染が特定された箇所については土壌を入れ替えるよう要請する。</p> <p>3 普天間の子どもたちを取り巻く空・土・水の安全を保障すること</p> <p>2017 年の落下物事故の後、当時の緑ヶ丘保育園の保護者・保育者は「チーム緑ヶ丘 1207」を結成し、12 万筆の署名を集め、内閣府・防衛省・外務省に対し、事故の原因究明と原因究明までの飛行禁止、園上空の飛行禁止を要請した。その後も、沖縄県、宜野湾市、沖縄防衛局、外務省沖縄事務所などを繰り返し訪れ、子どもたちがさらされている危険を訴えてきた。しかし、事故から 5 年が経つ現</p>		

受理番号	受理年月日	件名及び要旨	提出者	送付 委員会名
		<p>在も、子どもの命が守られるための改善が行われているとは言いがたい現状がある。</p> <p>普天間飛行場では、騒音が大きな外来機の固定翼機の飛来が増えている。2017年度には外来の固定翼機の発着が236回であったのに対し、2018年度には1520回、2019年度には2678回だった。負担は増大するばかりである。また、コロナ禍以降、窓を開けての換気が必要な状況で、子どもたちはすさまじい騒音にさらされている。</p> <p>空の安全を守るための活動を続けていこうとしていたところ、2022年には子どもたちの通う小学校の土壌がPFASで汚染されていることが明らかになった。私たち保護者は、従来から訴えてきた空の安全が守られないだけでなく、水や土の安全も脅かされている現在の状況を許容することはできない。</p> <p>普天間の子どもたちが置かれている状況は、日本国憲法が保障する法の下での平等及び差別の禁止に反するものである。しかし、宜野湾市、沖縄県という自治体からの声だけでは状況を動かすことができない。</p> <p>憲法前文が保障する平和的生存権に基づき、普天間の子どもたちを取り巻く空・水・土の安全を保障することを要請する。</p> <p>以上を貴議会において採択し、その旨の意見書を、地方自治法第99条の規定により、国及び衆議院・参議院に提出してほしい。普天間の子どもたちが、日本の他の地域の子どものように安全・安心に暮らせる環境を実現していくため、これら日本全体で解決すべき問題として捉え、ともに声を上げてほしいと思う。貴議会にて審議・採択するよう、心よりお願いする。</p>		